

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和7年度3月号

○ 概要

- (1) 令和7年度3月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,957億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+5.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,100円（伸び率+6.5%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が2,134億円（伸び率+1.9%）、薬剤料が5,809億円（伸び率+7.5%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,164億円（伸び率▲1.2%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,485円（伸び率+6.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率+0.7%）、29.0日（伸び率+4.1%）、68円（伸び率+1.4%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料4,321億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+235億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の806億円（伸び幅+29億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+79億円（総額618億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,321 億円 (+235 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(806 億円)	21 循環器官用薬 (631 億円)	42 腫瘍用薬 (618 億円)
0 歳以上 5 歳未満	18.8 億円 (▲1.3 億円)	44 アレルギー用薬 (5.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.2 億円)	61 抗生物質製剤 (2.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	121.2 億円 (+2.0 億円)	44 アレルギー用薬 (44.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (31.1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(9.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,701 億円 (+93 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(312 億円)	11 中枢神経系用薬 (305 億円)	42 腫瘍用薬 (211 億円)
65 歳以上 75 歳未満	818 億円 (+22 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(181 億円)	42 腫瘍用薬 (157 億円)	21 循環器官用薬 (135 億円)
75 歳以上	1,662 億円 (+119 億円)	21 循環器官用薬 (306 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(303 億円)	42 腫瘍用薬 (246 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,100円（伸び率+6.5%）で、最も高かったのは高知県（12,054円（伸び率+10.0%））、最も低かったのは佐賀県（8,941円（伸び率+9.3%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは和歌山県（伸び率+11.2%）、最も低かったのは北海道（伸び率+3.3%）であった。（→P.31～32）

《後発医薬品の使用状況について》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.7 %	+1.0 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	75.9 %	▲1.8 %
後発品調剤率	82.4 %	▲1.4 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.2 %	+9.3 % (100 歳以上)	▲13.3 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	75.9 %	84.8 % (100 歳以上)	73.9 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.7 %	94.6 % (0 歳以上 5 歳未満)	90.7 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	933 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (263 億円)	11 中枢神経系用薬 (157 億円)	44 アレルギー用薬 (112 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.2 億円 (▲0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (4.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	62 化学療法剤 (0.7 億円)
5 歳以上 15 歳未満	26.8 億円 (▲3.9 億円)	44 アレルギー用薬 (18.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)
15 歳以上 65 歳未満	345 億円 (▲8 億円)	11 中枢神経系用薬 (75 億円)	21 循環器官用薬 (74 億円)	44 アレルギー用薬 (64 億円)
65 歳以上 75 歳未満	175 億円 (▲3 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21 億円)
75 歳以上	378 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (126 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,477 円	1,795 円(北海道)	1,244 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.7%	+1.2 % (宮城県)	▲4.3 % (北海道)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.7 %	94.5 % (沖縄県)	89.4 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	75.9 %	80.1 % (島根県)	70.7 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	82.4 %	85.2 % (岩手県)	80.0 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。